

会議録

件 名	令和7年度 第1回丹波市立文化ホール事業推進会議
日 時	令和7年7月31日（木） 19:30 ～ 21:00
場 所	春日文化ホール 会議室
出 席 者	[委 員] 角 悟会長、吉良 哲也委員、荻野 義雄委員、田邊 利典委員、 柴原 希穂委員、梅谷 浩子委員、中出 靖大委員 （※欠席：廣瀬委員、吉見委員） [事務局] まちづくり部長 谷水 仁 文化・スポーツ課長 堂本 祥子 文化・スポーツ課芸術文化係 係長 見田 晋介 同 主事 瀬頭 史勇
【会議要録】 1 開 会 事務局 ・会議の成立 （事務局） 委員9名中7名の出席により、会議成立（1名会議途中より参加） （欠席委員については、事前連絡あり） 2 あいさつ 会長 3 委嘱書の交付 丹波市文化協会より推薦いただいた荻野 義雄委員に、谷水部長より委嘱書を手交 自己紹介 出席委員7名、事務局まちづくり部4名 4 報告事項 以下、議事進行を会長に依頼 —傍聴者の確認— （事務局） 一般傍聴者ならびに報道機関の申込みなし —会議の公開等の確認— （会長） 丹波市立文化ホール事業推進会議に関する運営要綱第2条より、会議の公開又は全部若しくは一部の非公開について諮る。本日の議事においては、個人情報に関するものはなく、丹波市情報公開条例に規定される不開示情報はないため、公開とする。 【委員からの異論なし】 ①令和6年度事業実施報告 ②令和7年度事業進捗状況 （事務局） —資料により説明— 令和6年度事業実施報告については、令和6年度第4回ホール事業推進会議（書面表決）において資料を配布しているため、一部を抜粋して説明。 令和7年度事業進捗状況については、全体の内容を説明。	

(委員)

ピアノトリオ MIYABI について、公演開催に至るまでの経過は理解している。多川さんが市にかけ合って公演を実施することになったと思うが、多川さん自身は当会議の委員ではない中で、公演を実施することになった経緯はどうなっているのか。

(事務局)

ファーストコンタクトとして、多川さんからネクストゼロへ話をされたが、そこで公演を実施するということになったのではなく、ネクストゼロから事務局へ情報共有されて、ホール事業推進会議の中でも多川響子さんのコンサートを実施してはどうか、丹波市出身のアーティストをピックアップしてはどうかという話題があったので、その部分とも合致するという判断のもと公演を実施するという方向にまとまった。

(委員)

ネクストゼロへ話があった？

(事務局)

そこがスタートになるが、多川さんとネクストゼロのみで話が進んでいったわけではない。

(委員)

前回の推進会議で話があった？

(事務局)

前々回くらいで公演の話が進みだして、確定に至った。

(委員)

ハートフルコンサートは個人でされているコンサートになるが、これとくっつけることになったのは、どういった経緯なのか。

(事務局)

くっつけるというのは？

(委員)

ピアノトリオ MIYABI 単独の公演ではなく、ハートフルコンサートの一環となったのはどうなのか。良い取り組みではあるが、いちピアノ教室の生徒さんだけ出演されるというのが、私情が絡んでいないのか。今後こういった形で押せば、本人が出ていなくても市の事業として実施できるのではないかという危険性があるのではないかと思う。公演は観に行きたいし、演奏も聴きたいと思っているが、運営として危ないのではないかと感じた。

(事務局)

市が後援しているという部分について、特定の生徒さんが出ているコンサートを市が後援するというのはいかという疑念もあると思うが、様々な添付書類と合わせて市および教育委員会へ後援の申請をさせていただいているので、その部分については問題ないと判断している。

ただ、市の事業として、自主事業として挙げていることに関しては、市やネクストゼロが主催でもない、ネクストゼロは協賛として入っているため、自主事業の一枠としていることに関しては少し意味合いが異なってくるため記載方法を変える必要があるのかもしれない。

初めからハートフルコンサートと合わせて実施することで進めてきたわけではなく、ピアノトリオ MIYABI の公演を実施するという軸のもとで話を進めてきたので、自主事業の枠の中で記載している。公演の実施に向けて、ひとつずつ段階を踏んで進めているため、事務局としては正しい手続きで進めていると判断している。

(委員)

私自身も第九をしているため、第九も後援してもらえれば大変ありがたいが、、

(事務局)

市も後援という形で名義で入っているだけで、ネクストゼロの協賛についても会場使用料分という形で公演料全てをみているわけではない。

(委員)

聴けることは大変嬉しい。その部分だけ疑問に思ったので。

③ホール運営業務委託に関する進捗状況

(事務局)

—資料により説明—

(会長)

本会議の委員に ZERO-IVの会長がおられますが、吉良委員いかがでしょうか。

(委員)

新聞記事の補足として、私自身も卒フェスの現場にいたが、演奏はもちろん高校生がする、PA操作といって音を出す、聴かせやすい音をどうやって出すか、演者さんに対して返す音をどうするかといった舞台スタッフのことも経験してもらった。また、照明や音響、舞台まわりのこともしていただいた。

刺激を受けたこととして、固定観念にないようなことをしていた。いろいろなアイデアを出してくれて、スタッフとしても皆刺激を受けた。そういったアイデアや意見を出してくれたことが、我々の活動においても役に立つというか参考にしたいと思った。

オペレーター育成講座にも熱心に来てくれていて、ありがたく感じている。高校生や若い方が入ってくれることによって、良い雰囲気全員がスキルアップに向けて取り組んでいる。現会員も積極的に参加して、とても良い流れができていないかを感じている。

5 協議事項

①令和8年度事業計画(案)

(事務局)

—資料により説明—

(委員)

3～4ヶ月間利用できなくて、これだけの本数ができるのか。

(事務局)

表中③、④の0才からのコンサートについては春日文化ホールで実施するなど、春日も使いながらを想定している。今年度についても、8月以降から3月までの間に公演を予定しているため、できないことはないと考えている。ただ、プロモーターとの調整は公演の1年前くらいから進めていく必要があるため、来年度に向けた調整を行う時期にはきている。

(会長)

6年度の事業の中で、補助事業として開催をされた大阪交響楽団のクラシックコンサートについて、別の予定があり足を運ぶことができなかったため、招待券についてはクラシックをしている別の方に渡したところ、とても喜ばれていた。しかし、入場者は196名と非常に少ない結果となった。

先日、丹波篠山の田園交響ホールで芦屋交響楽団の演奏会があった。スッペの「軽騎兵」やベートーヴェン交響曲の「田園」があったりしたが、やはりお客さんが少なかった。なかなかオーケストラを聴く機会がないからかもしれないが、集客は難しいのか。

田邊委員はよく聴かれるイメージがあるが。

(委員)

もう少し小規模なものは聴くが、、、、もちろん聴きたいし、公演があれば足を運ぶが。なかなか難しいのが現状ではないか。

(会長)

ここで意見を出すことで事務局の検討材料にもなる。

他の委員の方も意見をいただければ。

(委員)

時代というか、地域性というか、クラシック離れなのかなと思う。音楽に携わる身としては、もう少しクラシックにも親しんでほしいと思う。

(委員)

聴きなれない曲ばかりだったということもあるのかなと。

もう少し柔らかめの、オーケストラでもミュージカルの曲をやるとか、映画音楽をやるとかになると、もう少し来てくれるのかもしれない。

(会長)

最近クラシックを聴くことが少なくなっている。

(委員)

楽団も運営が大変だと聞く。地方公演は喜ばれるかもしれないが、そのあたりが、、、

(委員)

普段から中学生と接する中で、クラシックを聴きたいという子は少なくなっていて、吹奏楽をやっている子でも珍しくなっている。

高校生をメインにたくさんの企画をしていただいているが、中学生や小学生はターゲットではないのかなという印象を感じる。そこをターゲットにしてみるのもよいのではないかと思う。

(会長)

クリスマスの公演は非常に喜ばれている。

(事務局)

毎年完売近くまで売れる人気の高い公演で、会場内も大盛況となっている。

(会長)

演奏を聴くだけになるとなかなか難しいが、歌が入ると聴きやすくなる。

大型鑑賞公演については、クラシックコンサートに限ることではないため、ほかにも意見はあると思うが。

(委員)

クラシックより難しいとは思いますが、演劇も入れてほしい。前から言っているが。主役に有名な人がいれば、ある程度集客は見込めるのではないかと思う。演劇を観るのが好きな人は、大阪に行ったりするだろうが。

(事務局)

舞台の幅、大きさも演劇に適しているかというところもあるため、踏み切れない部分もある。

ネクストゼロへ委託することで、これまで偏った公演ばかりであったが、様々な広がりを見せてつつあるため、その柔軟性は上がってきていると思っている。

(委員)

大型鑑賞公演はいつくらいまでを目途に決められているのか。

(事務局)

例年、10月頃に大型鑑賞公演を行うため、次回のホール事業推進会議を行う9月頃には、決まっているかなというところ。

いつも7月の会議では、どの年齢層に焦点を当てるかという検討を行う程度になる。備考欄にも記載しているが、令和4、5、7年度は中高年から上の世代を、令和6年度は若年層を対象に公演を実施した。実績としては、どの公演も完売近くになっているため、著名なアーティストを呼んでくれば一定の集客は見込むことができる。令和8年度はどの年齢層を対象に行うのか、また、その時々旬があるためそこも見極めながら決めていくことになる。

(委員)

丹波市以外の方も大勢来られる印象がある。

(事務局)

福知山の両丹日日新聞に掲載すると、ネクストゼロへの問合せが増えたり、チケットを購入される方が増えたりと、こちらに来られる方が多い印象にある。

(会長)

綾部の中丹文化会館からも案内がよくくる。有名な方が来られているため、たくさんの方が行かれているイメージ。

(委員)

ライブピアは他所から来られた方にも評判が良い。

(委員)

大型鑑賞公演について、近年は高齢者向けの公演が多いが、若い方にもホールに足を運んでいただくことが必要だと思うので、若者向けに焦点を当てて公演を行ってもよいと思う。

(委員)

委託事業に関して、もともとはネクストゼロがどういう団体が分からなかったが、1年が経過して結果的にはネクストゼロへ委託して良かったのではないかと感じている。先ほど話にもあったように、皆さん楽しく、若い力も加わってきて委託してよかった部分であると思う。本来委託事業とはそうあるべきで、行政ではできなかったことがネクストゼロではできているため、見本となるような委託事業なのではないかと思っている。引き続き頑張ってください。

広報活動について、伝わりきれていないということが、ここ2年間見ていると感じる。子育て世代は、休みの日に子どもを外に連れていくことが多いが、この日にこんな公演があるというような、簡単にイベント情報が分かるものがあればよいのではないかと思う。地域内でいろいろな活動をされているので、そこに足を運べるようになればよいかなと。親も忙しくしているため、半期に一度の永久保存版のような情報誌があれば嬉しい。気軽に足を運べるような案内ができれば。そういった子育て世代が、文化芸術に関わることができるアプローチができたらよいと思う。InstagramなどのSNSを上手く活用すれば、若い世代にも有効な情報発信に繋がるのではないかな。

②ホール事業に関する意見及び助言について（情報共有/意見交換）

(事務局)

—資料により説明—

(委員)

PRについては、なかなか難しい。ここの部分が簡単に広報できるようになればと思う。クラシックに関しても、子どもたちに体験・経験してもらうという意味で鑑賞するのもありかなと思う。キャッチフレーズは難しいが、何か一言で惹きつけるような、少し敷居を下げて広報することもよいのではないかと思う。

また、ZERO-IVの活動について、ZERO-IVはボランティア団体であるが、出役の際はガソリン代やその他の経費として手当てをいただいている。自主事業や貸館事業の際は1区分1,500円で、A2事業の際は1時間200円で出役している。近隣の田園交響ホールでは、スタッフの出役費について見直しをされたということも聞いており、丹波市においても出役費の見直しを図っていただけたら嬉しく思う。遠方から来られるスタッフもいるため、少しでも上がれば会員に対して良い報告もできると考えている。皆さんのご理解をいただければと思う。

(会長)

ステージを運営する上で、ZERO-IVの協力は欠かせないものとなっており、また、昨今の情勢を鑑みて、ご検討いただければと思う。

6 その他

①年間スケジュール

②次回開催予定

(事務局)

—資料により説明—

(委員)

丹波市の LINE を入れているが、大概「はぴたん」が流れてくる。そこに流すことはできないのか。高齢者の方も LINE を入れている方はおられると思う。

(事務局)

LINE を配信する際は、ターゲットを選択することになっていて、現状はイベント・観光・子育てでヒットするようにしている。それ以外の方だとスルーされてしまうかもしれないが。

LINE などの SNS に関しては、状況に応じて掲載している。

(委員)

文化芸術活動を行う後継者の育成として、PA 講座という形で高校生に対して指導していることは非常に良いことであるが、それだけではないと考えている。他のホール運営の事例ではあるが、市民が集まって、何をするかを一から考えて、市に提案して予算を確保して、自主公演を行うという市民だけで創り上げるという取り組みを行っている。そこに加わった市民は、全員が何らかの携わりを持って参加する。そこまではなかなか難しいと思うが、ちょっとした演劇の体験から始まって、1 年かけて創り上げるようなことができれば。

演劇は近隣市もされているため過多ではあるが、森公苑で実施していた演劇祭を市が自主的にやってはどうかと思う。市民が参加する、ホールが身近で遊び場になるくらいまで近い存在になれば、おのずと後継者は育ってくるのではないかな。

ギター部に関しても、演奏の後ろでダンスをする人がいたり、MC やカゲアナをする人がいたり、いろいろな経験、体験をすることができる環境になれば、ギター部だけではなくて様々な人たちが舞台を経験することができるのではないかなと思う。

はじめの一步講座にしても、使わなくなったヴァイオリンがあれば集めてきて体験講座を行うとか、普段できない経験をさせてあげられるような講座があれば面白いと思う。

昨年、市制 20 周年であったが、朝来市も今年で市制 20 周年となり、21 回目となる朝来音楽祭を少し豪華に行うとのことで、丹波市も市制 20 周年で記念音楽祭を行うなど、何かやりようがなかったのかと思った。プロデューサー的な人がいればよいと思う。

文化・スポーツ課と市民活動課と観光課は、ぜひ連携していただきたい。

7 閉 会 副会長